

海外研修科目「海外フィールドスタディ」の開発と実践 ——北欧研修の報告——

Development and Practice of a Class “Overseas Field Study” ——Report on Academic Trip to Northern Europe——

森 博 子*

Hiroko MORI

要 旨

愛知淑徳大学人間情報学部では、海外研修を行う科目「海外フィールドスタディ」（学部共通選択科目）を2017年度より開講している。渡航先は、学部の学びでもある図書館サービス、デザイン、IT産業の部門で発展している北欧とした。本論文では、渡航先・訪問先決定の方針、2017年度および2018年度において渡航した都市・訪問先のうち図書館視察、福祉施設見学、大学視察・学生交流、企業視察の概要を報告する。

キーワード：海外研修、北欧、図書館、IT産業、デザイン、福祉施設

1. 序論

愛知淑徳大学人間情報学部では、海外研修を行う科目「海外フィールドスタディ」（学部共通選択科目）を2017年度より開講している。その目的は「人間情報学部で修得する知識（情報デザイン・システム、図書館情報、心理情報）が実際にどのように生かされているのかを把握するために、世界的にトップレベルの施設・社会・サービス・環境を視察する」ことである。本目的を満たせるよう、図書館サービス、デザイン制作、IT産業の部門で発展している北欧をターゲットとして渡航先および訪問先を検討・決定した。本論文では、まず、渡航先と訪問先決定の方針について述べる。次に、海外研修の主である図書館視察、福祉施設見学、大学視察・学生交流、企業視察について（研修で訪問した企業や施設自体の内容ではなく）研修の状況、学生の関心や様子等を中心に報告する。

2. 渡航先・訪問先決定の方針

研修先は学部の学びでもある図書館サービス、デザイン、IT産業の部門で発展している北欧を中心に検討した。2017年度および2018年度の海外渡航時の旅程・訪問先を表1および表2にそれぞれ示す。2017年度は8月31日～9月6日の7日間で主な研修都市はヘルシンキ（フィンランド）、2018年度は8月30日～9月5日の7日間で主な研修都市はコペンハーゲン（デンマーク）とヘルシンキとした。渡航先・訪問先は、特に以

* 愛知淑徳大学人間情報学部

下に重点を置き検討した。

①研修先のレベル・知名度

図書館視察，福祉施設見学，大学視察・学生交流，企業視察を必ず入れるように，さらにそれらは世界的にレベルの高い，あるいは有名な施設を選定した。また，学部が力を入れているユニバーサルデザインについて，公共交通機関や公共施設を見学・体験する機会を設けた。

②研修内容の理解・充実

人間情報学部で修得する知識（情報デザイン・システム，図書館情報，心理情報）が実際にどのように活かされているのかを把握できるように，図書館，福祉施設，IT企業訪問では，単なる見学だけでなく学部の学びに近い説明を受けられるように事前に先方に依頼した。また，学生から質問できる機会を設けた。これらの研修では，言葉の違いによって研修内容の理解が損なわれないように，研修先では英語ではなく，各国の言葉（フィンランド語あるいはデンマーク語）から日本語に通訳者を介して訳してもらい日本語で内容を理解する形式とした。ただし，英語でのコミュニケーションの機会も重要であるため，学生交流は英語のみを用いて行った。

③海外渡航の安全・安心

海外が初めての学生もあり，不安を軽減するために，自由時間を少なくし渡航中の食事は可能な限り全食を

表1 海外渡航時の旅程・訪問先（2017年度）

	日付	内容
1	8月31日（木）	中部国際空港→ヘルシンキ空港
2	9月1日（金）	【IT産業視察研修】 Otaniemi サイエンスパーク，NOKIA 社 【図書館視察】 パシラ図書館
3	9月2日（土）	【北欧製品デザイン研修】 フィスカルス，北欧デザインのショップ 【ユニバーサルデザイン研修】 ヘルシンキ中央駅，VR列車
4	9月3日（日）	【都市建築デザイン研修】 タンペレ市内 大聖堂，教会，街路等
5	9月4日（月）	【大学視察・学生交流】 メトロポリア応用科学大学 【福祉施設見学】 Villa Tapiola
6	9月5日（火）	ヘルシンキ市内観光，ヘルシンキ空港より帰路へ
7	9月6日（水）	中部国際空港

表2 海外渡航時の旅程・訪問先（2018年度）

	日付	内容
1	8月30日（木）	中部国際空港→コペンハーゲン空港
2	8月31日（金）	【福祉関連施設見学】 No Barriers Advice 【図書館視察】 王立図書館
3	9月1日（土）	【北欧デザイン研修】 デンマークデザインミュージアム コペンハーゲン空港→ヘルシンキ空港 【ユニバーサルデザイン研修】 ترام乗車
4	9月2日（日）	【北欧製品デザイン研修】 フィスカルス，北欧デザインのショップ
5	9月3日（月）	【IT産業視察研修】 Otaniemi サイエンスパーク，NOKIA 社 【大学視察・学生交流】 メトロポリア応用科学大学
6	9月4日（火）	ヘルシンキ市内観光，ヘルシンキ空港より帰路へ
7	9月5日（水）	中部国際空港



図1 ヘルシンキ大聖堂の前での集合写真 2017年度(左), 2018年度(右)

設けるようにした。また、研修だけでなく観光スポットや地元のスーパーマーケットにも出向き、観光を楽しんだり現地の日常を知る機会を設けた。

本授業では海外における研修だけでなく、事前研修として、訪問する都市や施設・企業の研究や文化交流のための英会話等を学習した。渡航後には、学生は個別にレポートを作成・提出した。次章では、参加学生の現地での質問や提出されたレポートより着目された点を述べる。

なお、本科目の履修者は、2017年度は26名、2018年度は13名であった。集合写真を図1に示す。

3. 研修内容の報告

3.1 図書館訪問

2017年度は、フィンランドのヘルシンキにあるパシラ図書館を訪問した。最初に、図書館の概要およびシステムについて説明を受けた。学生からは「利用者の声を聞くことを重視しているとのことだが、どういう手法で聞いているのか」「驚くほどの様々なサービスがあるが、なぜそのような取り組みをするのか。図書館としての必要性は何と考えているか」「多くの成功例はわかったが、こんな取り組みをしたけれど失敗したということがあれば教えていただきたい」等の質問があった。説明後に、図書館内を見学した。日本との違いに着目した学生が多く、「システムを用いて貸出・返却(自動チェックインやチェックアウト)のシステムも備わっている」「本以外にもミシンや杖等の約100品目もの貸し出しを行っている」「建物は吹き抜けで明るく、池や



図2 中央に池があるパシラ図書館(左), 4階まで吹き抜けのフィンランド国立図書館(右)



図3 王立図書館 ブラックダイヤモンドといわれる外装（左）、曲線を使って柔らかな印象の内装（右）

くつろげるスペースがあった（図2左）」「フィンランド語の書籍以外に、漫画、日本語等の外国語の書籍、貸出用PCやタブレットまで備わっていた」等に関心が寄せられた。

2018年度は、コペンハーゲンにある王立図書館を訪問した。最初に、説明を受けながら館内を見学した。本棚のある部屋だけでなく、学習空間、展示室、蔵書室等を見学し、一般利用者が入れないところも見学させていただいた。外装はブラックダイヤモンドといわれ（図3左）硬いイメージを持つが、内装は曲面を使った柔らかなイメージ（図3右）であった。学生からは「場所によって利用目的が明確であり、読書室・勉強室は話し声が全くなかった」「デザイン性は勿論のこと、舞台、売店、喫茶店等もあり機能面でも充実した図書館であった」等に関心が寄せられた。次に、図書館の概要とシステムについて、Ms. Lene WendelboeとMs. Britt Irene Petersenより説明を受けた。学生からは「利用者の希望を聞いて本を購入するのか」「他の図書館との連携はありますか」「次々と本を購入すると図書館に入らなくなる。そうなった場合は電子化を検討するのか」「システムの突然のトラブル等も対応するのか」等の質問があった。

本研修では、渡航前の予定にはなかったが、両年度とも通訳案内業者（ガイド）の方のご好意でフィンランド国立図書館（図2右）およびショッピングモール併設のSELLO図書館も見学する機会を設けていただいた。よって、2017年度の参加学生は、パシラ図書館、フィンランド国立図書館およびSELLO図書館を、2018年度の参加学生は、王立図書館、フィンランド国立図書館およびSELLO図書館を見学し、3つの図書館の違いや北欧の図書館の特徴を把握することができた。

3.2 福祉施設訪問

2017年度は、Villa Tapiolaという福祉施設を訪問した。最初に施設内を見学し、その後、施設の説明を受けた。個室の他に、共用スペースが何か所もあった。また、広々とした庭にはベンチがありくつろげる空間になっていた（図4）。説明では、スタッフの役割、日常の仕事、金銭面を含む施設の運営について話をお聞きした。学生からは「日本では介護士が不足しているが、（この施設に限らず）フィンランドはどうか」「認知症の人とどう接しているのか」「スタッフの方は笑顔が絶えないが、大変と感じることはないか。どんなことを大変と感じるか」等の質問があった。また、「福祉施設という大変なイメージがあるが、スタッフも入居者も穏やかであった。また施設自体もきれいで、臭いも全くなかった」「入居者には穏やかに接する、スタッフ同士もコミュニケーションを大切にすることにより良い環境を作り出していた」との感想があった。

2018年度は、No Barriers Adviceという福祉関連の施設を訪問した（図5）。本施設は、「高齢者や障害者のお世話をする施設」ではなく、「ハンディキャップの人がノーマルな人達と同様に働けるオフィス集合建築」で2013年に設立された。現在、本建物に300人が働き、そのうちの20%はハンディキャップの人である。本研修では、オーナーで建物の設計から携わっているMr. Jesper Boesenより説明を受けた。「ハンディがあっ



図4 Villa Tapiola の緑豊かな庭 (左), 共用のくつろぐスペースもある廊下 (右)



図5 No Barriers Advice での研修の様子

でも自立して働けるような建物を意識してデザインした」との説明を受け、実際にどのような工夫があるかを具体的に見学した。建物の内外で様々な工夫があり、学生はその都度感嘆していた。学生からは、「環境が整えられていないからハンディなのであって、環境が整えば自立できるからアクセシビリティに配慮しよう、という考えは目から鱗であった」「先を見据えることを念頭に置き、すべての人の価値は平等であることを前提として行動することがアクセシビリティだということが視察を通して学ぶことができた」「デザイン性を損なわず尚且つ機能性にも優れていた」等の感想があった。

3.3 企業訪問

2017年度および2018年度ともに、エスポー市にあるNOKIA社を訪問し、ディレクター Mr. Matti Keskinen より、会社の歴史、事業内容、今後の方向性などの説明を受けた(図6)。「小規模な会社から出発して、携帯電話事業で大きく発展、しかしながら他企業の進出で新たな事業転換」といった取り組みを聞き、学生は大きな刺激を受けていた。学生からは「NOKIA社の強みは何か」「多くの特許出願等があり感心させられます。仕事として大切としていることはありますか」「従業員が働き易くなるようにどんなサポートをしていますか」「医療組織に対して仕事をしているとのことでしたが、個人へ取り組みもありますか」等の質問があった。最後に Mr. Matti Keskinen より「今の社会は、1つの会社勤めだけで安堵するような状況ではなく、どんなに大きな会社に勤めたとしてもいつ経営が傾くかわからない。1つの会社あるいは技術に依存する人間になってはいけない。柔軟に対応できるように日頃から意識を持って学問に励んで欲しい」との激励を受けた。



図6 NOKIA 社にて、ディレクター Mr. Matti Keskinen の説明 (左) と質疑 (右) の様子

3.4 大学訪問・学生交流

2017 年度および 2018 年度ともに、メトロポリア応用科学大学を訪問した。2017 年度は、最初に、国際交流センターの Tiina Piipponen 先生より大学の概要と国際交流の取り組みについて説明を受けた。次に、IT 専攻の Antti Pironen 先生より IT 分野の授業概要の説明をお聞きし、留学やサマーセミナー等についても教えていただいた。その後、学生 4 人のアテンドによりグループに分かれてキャンパスツアーを行った (図 7 左)。ツアー後は、自己紹介ゲームやフリートークを通して交流を図った (図 7 右)。学生同士で、英語で積極的に会話や日本の紹介をしており、充実した時間を過ごせたようであった。



図7 キャンパス見学 (左), 日本の紹介 (右) の様子



図8 グループに分かれてディスカッション (左),最後の挨拶 (右) の様子

2018年度は、国際交流センターの教員より大学の概要と国際交流の取り組みについて説明を受け、キャンパスの見学を行った。次に、5つのグループに分かれて学生交流を行った(図8)。各グループは研修参加の学生2、3人に対して現地の学生1名であったため、各人が発言する機会が多くあった。自己紹介、大学や学部の紹介、研究内容、お互いの文化や興味等のフリートークを通して約40分間の交流を行った。英語に苦手意識を持つ学生も多かったが、スマートフォンで画像を見せたり、日本から持参したものなどで説明したりし、英語でのコミュニケーションに自信が持てた様子も窺えた。

4. おわりに

本論文では、2017年度および2018年度における「海外フィールドスタディ」の取り組みについて、渡航先と訪問先決定の方針、主な研修での状況、学生の関心や様子等を中心に報告した。渡航後に提出されたレポートより、上記で述べた以外でも「街並み」「エコ」「デザイン性」「色彩」「人同士のやり取りや考え方」「キャッシュレス」等をキーワードとした日本との違いに関心や気づきがあった。研修全体の感想としては、「観光では決して味わえない素晴らしい経験をすることができた」「日本にいただけでは気づくことのできなかつた発想や、取り入れるべきだと感じたシステムなど、様々なことを発見し、体験することができた」「個人で旅行に行っても行かないようなところからメジャーなところまで多く回れ、大変満足した研修になった」「自分の視野や考えの幅を広げることができた」「今回の研修で得た学びを踏まえ、日常生活を豊かにする広い意味でのデザインを追及していきたい」等が挙げられた。本授業で得た知識や経験を今後の学修や就職につなげ、人間情報学の専門性を社会で役立てて欲しいと思う。今後も、学生の関心や社会の動向からより学修効果の高い授業展開を図っていきたい。